

ナチュラリストの

フィールド日記

318

中川宗孝(環境生物研究会・城陽環境パートナーシップ会議)

コロナ禍の夏休み、思い出フォト日記

で広く知られるようになりました。

そしてこの日、元祖・子供鳥博士の岡井勇樹君夫妻(写真④中)が11月にならぬうちに、夏休みの思い出を撮影し、DVD版(今年改訂版の予定が中止となり、早期完成が待たれます)を

今年も8月1日に京都府山城総合運動公園・太陽が丘で「夏休み、親子の昆虫教室」が予定されてい

今年も8月1日に京都府山城総合運動公園・太陽が丘で「夏休み、親子の昆虫教室」が予定されてい

今年も8月1日に京都府山城総合運動公園・太陽が丘で「夏休み、親子の昆虫教室」が予定されてい

今年も8月1日に京都府山城総合運動公園・太陽が丘で「夏休み、親子の昆虫教室」が予定されてい

コロナに翻弄された今年の夏も終わり、川の水も冷ややかに感じられる昨今です。

ナチュラリストにとって、例年の夏休みの定番イベントがごとく中止となり、予定していた計画が果たせない現状にはほとほと参りました。緊急事態宣言の解除で、ようやくナチュラリスト仲間とも楽しいフィールド活動が復活しましたが、本分とする啓蒙活動や成果の発表の檜舞台がなくなったことで、士気も上がらぬじまいのまま夏本番を迎えていました。

列車の旅や博物館などミュージアム巡りの自粛はさほどではありませんが、夏休み恒例の水辺の生き物と昆虫採集の自然観察会の中止には落ち込みました。感性豊かな少年期に、身近にもこんなにたくさんの生き物があることを知り、大切にしなければいなくなってしまふ希少なものと歓迎されないものがあることを学んで、自然や環境を考えるエコキッズ養成のお手伝いに携わっているとの自負がナチュラリストの誇りでもあります。

今年も8月1日に京都府山城総合運動公園・太陽が丘で「夏休み、親子の昆虫教室」が予定されてい

そして今年も、開催を心待ちにしている人たちからの問い合わせが相次ぎ、やはり中止になった「城陽環境パートナーシップ会議」主催の「今池川・水辺の生き物採集会」でも、久しくの野村隆俊先生からエールをいただきました。こうしたコロナ禍の呪縛の中で、和束町教育委員会町史編さん室主催の自然観察会と、やましろさずサイエンス主催の「サイエンス夏祭り2020」が開催され、ナチュラリストにとって実に5ヶ月ぶりとなる活動の場を与えられて大いに勇気付けられました。

和束町の観察会では、講師の林博之先生から新種登録されたナガレカマツカが生息する可能性がある

野鳥調査への功績が評価され、日本鳥類保護連盟から「子ども鳥博士」に認定され、5年生の時には理科の先生たちの研修会でバードウォッチングの講師を務め注目されました。

当時の岡井勇樹君と重なるジュニア優樹の5年生の夏の京都府に於ける新種の淡水魚・ナガレカマツカ発見!の栄誉を分かち合いました。小学校5年生の夏休みの登校日、担任の宮本健示先生

から「日焼けを通り越して焦げてるやないか!」とからかわれ、「夏の申し子」たる言葉を押しつけてから半世紀余り、天から見守ってくれている恩師の遺影に掌を合わせ、自慢の愛弟子がとらえた水中写真(写真⑤)を掲げての感謝の報告です。

例年、大好評の太陽が丘・昆虫採集観察会(写真⑥)も、今年はコロナの影響で開催されず、お土産のクワガタ・カブトムシ採集の大義名分もなく見送ってしまいました。それでも、本

春樹君兄弟と、昨年の観察会に参加できず、今年こそは生き物好きの孫との参加を楽しみにしていた島本憲司さんと英年さん(写真⑦左1、2)に声をかけ、西森名人の出番がやってきました。良場のクヌギが伐採の憂き目に、主役の英次郎君(同左3)も自身でカブトムシを捕獲するなど、優樹・春樹君の弟子の虫採りデビューは上々でした。(写真⑧)

生き物大好き少年の話題は続きます。今年もツバメの巣を襲ったへびや家の中を見つけたへびを引取りに行くなど、小さなトビックスは尽きません。8月29日にマムシが出た!と連絡を受けた城陽市青谷の北島均さん(写真⑨左)には、これまでにも珍蛇・シムグリなど生き物情報でお世話になりました。お母さん(写真⑨右)は、8月28日のこの日は実際の生き物アオダイショウを持参して確認してもらいました。お母さんの憎きカタキも、生き物好きな悟有君には魅力的な可愛い奴で、共に記念撮影です。エコキッズの必携アイテム「城陽生き物ハンドブック(DVD版)」、今年改訂版の予定が中止となり、早期完成が待たれます。

また、お家の方がへびに咬まれて病院で治療されたと聞いて駆け付けけた中澤晴治さん(写真⑩右)宅に、8月28日のこの日は実際の生き物アオダイショウを持参して確認してもらいました。お母さんの憎きカタキも、生き物好きな悟有君には魅力的な可愛い奴で、共に記念撮影です。エコキッズの必携アイテム「城陽生き物ハンドブック(DVD版)」、今年改訂版の予定が中止となり、早期完成が待たれます。

◎親子三代生き物日記

7月24・25日、今年も「サイエンス夏祭り」が「アスピアやましろ」に於いて開催されました。城陽環境パートナーシップ会議の盟友・小林駿先生(写真①中央)は、時節柄「コロナ

ウィルスと地球の自然環境」の表題で講演されました。筆者は相変わらずの「ふるさとの生き物たち」の不变のテーマを掲げてのトークと実演パフォーマンスです。

今年も定員も子供は、10名!の寂しい会議室の講座に、幅広い年齢の発表も定員が40名ほどと寂しいかぎりですが、ジュニアメンバーの松井優樹君共々一日間にわたって生き物ライブを楽しみました。

校2年生の生き物好きな弟子入り志願の少年が中尾先生の紹介で訪ねてきました。その時の優樹君との出会いからのエピソードも、幸運の星の下、天賦の才に恵まれたエコキッズ(写真②③)もう3年前のサイエンス夏祭りに、当時、小学校

取り上げられる活躍の鳥類ブ

共筆者

坂英弥君(同左)と

共に筆者

の鳥類ブ

の鳥類ブ

の鳥類ブ

